メディアはスポーツ外傷をどのように描いているか？
－特に映画について－

爲澤　健太　（競技スポーツ学科　トレーニング・健康コース）
指導教員　大久保　衛

キーワード：スポーツ外傷，映画，心理面

1．緒言

スポーツと映画は文化の一側面を担っており，映画の中でスポーツを描いているものも多く，いわばスポーツ映画というジャンルを作っている．スポーツ映画では，選手の怪我も扱われており，それは映画制作者が意図的に選手に怪我をさせ，ある種のメッセージを鑑賞者に投げかけていることになる．

この研究では，映画の中で，スポーツ外傷・障害がどのように描写，演出され，鑑賞者にどのように伝わっているかということを，スポーツ外傷・障害を学んで来た立場から分析し，検討することを目的とした．

2．研究方法

1974年から2011年までに制作された40本のスポーツ映画を鑑賞した中から，前十字靭帯損傷（以下ACL損傷とする）を描いたアメリカンフットボールの映画「プライド　栄光への絆」（原題:Friday Night Lights）と後十字靭帯損傷を描いたバスケットボールの映画「恋のスラムダンク」（原題:Just Wright）を対象として選択し，受傷シーン，治療シーン，心理面に関するシーンの検討を行った．

3．結果および考察

両映画とも受傷シーンは，コンタクトによる受傷を描いていたが，正しい発生機序ではなく，「プライド 栄光への絆」では反対側のACL損傷が，「恋のスラムダンク」では内側側副靭帯の損傷やACL損傷の発生機序が描かれてしまっているのではないかと思われた．

治療シーンでは，徒手検査法やリハビリテーションのシーンが描かれていたが，必ずしも正しい方法が描かれてはいないと思われた．

心理面ではKubler－Rossの臨死５段階モデル（否認，怒り，取り引き，抑うつ，受容）と比較すると，「プライド 栄光への絆」では，否認，抑うつ，受容が描かれ，「恋のスラムダンク」では，抑うつ，受容が描かれており，怪我を負ったスポーツ選手の精神状態を理解する上で参考になると思われた．

4．まとめ

受傷シーン，治療シーンでは現在のスポーツ医学の知見とは必ずしも一致しないシーンが散見されたが，可能な限り正確な表現を望みたい．心理面の描写では，現実に選手が辿りやすい心理的変化が描かれ，参考にすべきと思われた．

参考文献

キュブラー・ロス，E，（1991），川口正吉（訳），（1971），死ぬ瞬間―死にゆく人々との対話，読売新聞社
中嶋寛之，（2011），新版　スポーツ整形外科，南江堂，283-296
日本整形外科学会編（2012），前十字靭帯損傷ガイドライン